

第3学年の取組

(1) 実践内容「ふるさと菟目寺～人にやさしい町づくり～」

① はじめに

3年生は、「人にやさしい町づくり」と題し、福祉をテーマにESDを行う。「福祉」について共感・共生の意識や態度を育て、実践へと活かすことができるよう、本年度の重点目標である「人とのかかわり合い」を大切にしたい取組を行うことにした。

1学期は、公共施設見学や福祉実践教室を通して「知る」「気付く」活動を、2学期は、調べ学習や総合学習発表会での発信、デイサービスセンター銀羊苑訪問を通して「広げる」「深める」「伝える」活動を、3学期は銀羊苑とのさらなる交流を通して「伝え合う」「高める」活動を計画した。その際に、場面に合った話し方やグループの話し合い、インタビュー、質問の仕方など、コミュニケーションスキルの活用を国語科との連携を図りながら行っていきたい。

② 「人にやさしい町づくりのために自分たちができることをしようー地域の人とのかかわりを大切にー」 ア 公共施設見学「総合福祉会館について知ろう」（5月）

地域の公共施設である総合福祉会館を見学した。乳児から高齢者まで利用できる施設であることを知った。建物の中には、「体の不自由な人のために優しい工夫」をととてもたくさん見つけることができた。体の不自由な人のために寝たまま入れるお風呂、車いすで入れるトイレなどがあり、子どもたちは、「体の不自由な人も安心して過ごせるね」と感心していた。



【利用したことがある人？】

イ 福祉実践教室Ⅰ～盲導犬について知ろう～（5月）

福祉についてもっと知る活動として、社会福祉協議会の方に協力していただき、盲導犬教室を開いた。盲導犬の優秀さの実演、アイマスクをして号令をかけながら盲導犬と歩く体験を行った。アイマスクをつけて歩いたときは、恐る恐る歩いていたが、盲導犬と一緒に歩くと、「一人で歩くより安心できる」ことが分かり、目の不自由な人の目の代わりの役目をし、行動範囲を広げてくれる大切な役目を担っていることに気付くことができた。



【一人で歩くより安心】

ウ 町のバリアフリーを見つけよう（7・8月）

国語科「気になる記号」の学習後、町の中にある「気になるバリアフリー見つけ」に取り組んだ。「バリアフリーとは何か」について理解をした後、夏休みに家の人に協力していただき、バリアフリー探しをした。その際に、「どこにあったか」「どういう人のためのどんな工夫なのか」の二点に留意させた。

車いすで入ることができる多目的トイレ、身障者用駐車場など、多くの施設や設備の工夫があることに気付くことができた。作品を見ると、写真を効果的に使って「誰のための」「どんな工夫なのか」ポイントをおさえて的確にまとめることができた児童が多かった。

エ 福祉実践教室Ⅱ～興味のあるテーマを選択し、体験しながら学ぼう～（10月）

福祉について、4月当初よりは興味・関心をもてるようになってきたが、まだ知らないことが多い。そこで、2回目の福祉実践教室を行った。1回目は、全員が盲導犬教室に参加したが、2回目は、アイマスク・点字・手話・車いす・高齢者疑似体験の5つの講座から選択し、体験をした。

車いす教室では、簡単に見えた車いすの操作が意外に難しく、子どもたちは、体育館の床に引いたマットの小さな段差を越えるだけでも大変だということを実感した。



【ちょっとした段差だけなのに・・・】

オ 調べて分かったことをまとめ、友達や家の人に発信しよう（10・11月）

「目・耳・体の不自由な人たち」「高齢者」「町のバリアフリー」など福祉について興味・関心をもったテーマを決め、そのテーマについて詳しく知るために、本やインターネットで

調べ学習を行った。同じテーマをもつグループで協力して情報を整理・活用し、絵や写真の効果的な使い方を考えてまとめていた。また、伝えたいことを分かりやすく伝えるために劇、実演、ニュース風など、表現方法を工夫していた。

発表会当日は、相手によって少しでも興味をもってもらえるよう、親向けと2年生向けのクイズ問題を替えるなど、伝える相手を意識して発信するように努めていた。

③ 国語や学級活動との連携を図った授業実践（11月）

発表を終えた児童たちに、「身近な福祉実践から始めてみよう」と言葉を投げかけ、何ができるか話し合いの場を設けた。自分たちができそうで、かつ、みんなで取り組んでみたいことを各自考えさせた。

一人暮らしや施設に入っているお年寄りには、「一緒に話をしたり遊んだりして元気をあげたい」と、相手の立場に立って考え、相手に寄り添った思いや願いを考える児童が多かった。その後、グループや全体の場で意見を交流し合った。

全体発表では、グループの代表者がグループ内で出た提案意見を報告し、黒板で分類して、具体的に3年生で取り組むことが可能な福祉実践の決定を図った。その中で、「銀羊苑を訪問し、お年寄りを元気にしてあげたい」という意見が採用された。

次時には、銀羊苑訪問の内容を学級会を開いて話し合った。訪問プログラムとして、前半は甚目寺の民謡「甚目寺カップレ」や「ソーラン節」の披露や甚目寺小の一年間の主な学校生活の発信をすることになった。後半は、グループごとのふれあい（昔の話を聞いたり、昔の遊びを教えてもらったりする）に決まった。そこで、発信内容・発表の仕方を国語科と関連させて考えることにした。

ア ESD国語科 単元「進进行を考えながら話し合おう～つたえよう、楽しい学校生活」

（ア）導入の様子

甚目寺小学校の一年間の学校生活や行事について4月から順に振り返りをした。まず、個人でどんなことを説明したいか自分の考えを整理して書いた。次に、教科書の話例をもとに、司会者を立ててから司会者のリードで話し合いを行うことや、話し合いに参加するときには、相手の話をよく聞き、共通点や相違点を意識して話すことを確認した。

（イ）展開・認識の高まりの様子

a コミュニケーションスキルのトレーニングⅠ〈効果的な話し合いの仕方の習得〉

一年間の学校生活から、どんな事をどのように説明したいかを決めるためにグループごとに話し合った。司会者を中心に建設的な話し合いを行うことができるように、国語科の授業で既習した話し合いのルールを確認してから、グループに分かれて話し合いをした。提案する児童は、自分の意見や考えを先に言い、その理由を後につけて言う話型を活用できていた。また、司会をする児童も学習したことを意識して、話題がそれてしまったりマニュアル通りに話が進まなかったりしたときも、一旦それまでの話し合いの様子をまとめて、グループの決定に結びつくように考えて、話し合いをリードしようと心がけていた。

b コミュニケーションスキルのトレーニングⅡ〈発表の仕方の理解・練習〉

学校生活についてクラスでミニ発表会を開き、発表の仕方について互いに助言し合う授業を行った。低学年での既習ポイントである声の大きさ・姿勢・口形・速さに加え、視線・間の取り方・強弱や抑揚など、助言の観点を明確にした。また、良い点や工夫したらもっと良くなる点を見つけるよう助言した。助言をもらった点について、改善するよう意識して練習をし、二回目のミニ発表会を行った。その後、良くなった点について振り返りをしながら互いに誉め合った。その成果が出て、後日、銀羊苑を訪問し、自信をもってお年寄りに伝わるように意識して発信することができていた。マニュアルのないふれ合いタイムでも、相手の気持ちに寄り添って一生懸命接しようとしている児童が多かった。お年寄りの方たちにとっても喜ばれ、たくさんの誉め言葉のシャワーを浴び、子どもたちは、満足感に満ちあふれていた。そして、子どもたちから「是非もう一度銀羊苑に行って、お年寄りを喜ばせてあげたい」という声につながった。早速、学級会を開き「もう一度銀羊苑へ行って、銀羊苑の方たちと もっと仲良くなろう」と交流会を開くことを決定した。



【段差での車いすの操作の仕方の実演】

イ ESD総合的な学習の時間「銀羊苑の人たちが喜んでくれるような交流会の内容を考えて話し合おう」
再度、銀羊苑のお年寄りと交流するにあたって、銀羊苑のお年寄りの立場に立って、よりよい交流の内容を考える授業を計画した。

(ア) 導入の様子

前回の銀羊苑訪問での写真を見ながら、振り返りをし、「お年寄りがもっと喜んでくれる」よりよい交流会の内容を考える意識づけを行った。

(イ) 展開の様子〈「高め合い」に向けての自分の考えの整理〉

ボックスチャートをアレンジしたチャートを活用して、「個人で」「小グループで」「全員で」交流会で取り組んでみたいことを付箋に書いて分類した。「個人」では、「手遊び・あやとり・将棋を一緒にしたい」、「小グループ」では、

「百人一首の坊主めくり・おはじき・めんこをしたい」、「全体」では、「学校生活の劇をしたい」「踊りを踊りたい」「リコーダーをしたい」など、多くの児童がすらすらと書く事ができていた。また、前回の訪問での様子をふまえた考えを出すことができていた。付箋への記入が進んでいない児童のため、できている児童のものを参考にさせた。

(ウ) 高め合いの様子〈国語科の既習事項を活用させたグループごとの話し合い〉

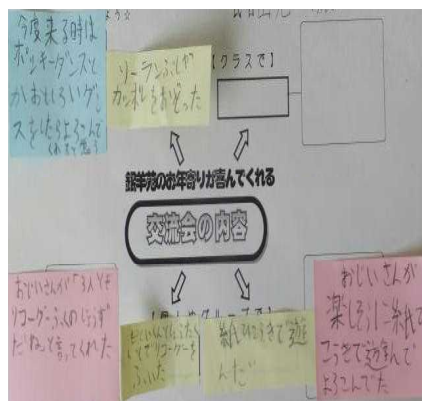
自分の考えをもとに、銀羊苑の人との交流会で自分たちが取り組んでみたいことについて4人グループで話し合った。その際、国語科の「話し合いの仕方」を確認し、司会者を中心に、互いの意見を聞き合い、自分の考えと比べながら話し合いをまとめていくよう意識させた。話し合いに参加するときは、指名されてから話すことや、「○君の意見と同じように～」 「○君にちょっと付け足しで」など、立場を明確にし、共通点や相違点を意識した建設的な話し合いが、ほとんどのグループでできていた。国語科との連携が有効であることを実感できた取組であった。

④ その後の取組

1月に再度銀羊苑に行き、お年寄りによりよい交流会を行うことができた。全員では、昔話「桃太郎」の劇、「海の声」「みんながみんな英雄」のリコーダー奏、「PPAP」「ポッキーダンス」のダンスをし、個人・グループでは、将棋、オセロ、めんこ、折り紙、お手玉などをしながら楽しそうにふれ合っていた。中には、お年寄りがリクエストした酉の絵を描いてプレゼントしたり、補聴器をつけているお年寄りに気付き、伝わりやすいようにゆっくり大きく話すことを心がけていたりした児童もいた。また、1回目のときは、教師が手を出していた部分が多かったが、2回目は、司会・進行もすべて子どもたちに任せて行った。

(2) 実践の成果と課題

福祉をテーマに地域の人たちとのかかわりを大切にしながら「人にやさしい町づくり」に取り組んできた。銀羊苑に2回行ったことは、1回だけのときより共生・共感の意識が高まったといえる。また、様々な場面が必要とされるコミュニケーションスキルの習得を国語科を中心に朝の会でのスピーチ・算数・理科・社会科など各教科での考えのペアや小グループでの話し合い活動や学級活動での全体での話し合い活動を継続して活用して行うことでスキルが定着・向上しつつある。学年ごとに系統立てて取り組んでいくと、さらに効果が上がると思う。有効なチャートの活用も引きつづき研鑽していきたい。



【考えの整理に活用したチャート】



【グループの話し合いの報告】



【「坊主めくり」楽しい】